

令和7年度「全国学力・学習状況調査」指宿市結果報告

文部科学省は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために、小学校6年生と中学校3年生を対象とした全国学力・学習状況調査を実施しています。

指宿市では令和7年度の調査に全小・中学校が参加しました。教育委員会及び市内の各学校では、この結果を基に実態を把握し、学力向上に向けた取組を更に充実していきたいと考えています。

なお、教科に関する調査は小学校第6学年（国語・算数・理科）の3教科、中学校第3学年（国語・数学・理科）の3教科の実施であることから、市内の全児童生徒の学力傾向を示しているわけではありません。全体的な傾向と出題された領域を分析するものであることを御理解ください。

1 教科に関する調査の結果概要（平均正答数・平均正答率）

(1) 小学校6年生

小学校では、国語、算数ともに県平均正答率を下回ったが、令和6年度と比べると県との差が縮まった。

	国語		算数	
	指宿市	鹿児島県	指宿市	鹿児島県
令和7年度	8.9 / 14 問 (64%)	9.3 / 14 問 (67%)	8.8 / 16 問 (55%)	9.2 / 16 問 (57%)
令和6年度	9.0 / 14 問 (65%)	9.6 / 14 問 (69%)	9.5 / 16 問 (59%)	10.0 / 16 問 (62%)
令和5年度	9.0 / 14 問 (65%)	9.4 / 14 問 (67%)	9.3 / 16 問 (58%)	9.8 / 16 問 (61%)
令和4年度	9.2 / 14 問 (66%)	9.3 / 14 問 (66%)	10.2 / 16 問 (64%)	10.1 / 16 問 (63%)

※指宿市及び県平均正答率は、小数第一位を四捨五入した値（整数値）である。

	理科	
	指宿市	鹿児島県
令和7年度	9.7 / 17 問 (57%)	10.2 / 17 問 (60%)
令和4年度	11.4 / 17 問 (67%)	11.4 / 17 問 (67%)
平成30年度	9.2 / 16 問 (58%)	9.5 / 16 問 (59%)

※平成24年度から「理科」を追加。理科は3年に1度程度の実施。

※平成31年度（令和元年度）から英語を追加。英語は3年に1度程度の実施。

※平成31年度（令和元年度）から「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施。

(2) 中学校3年生

中学校では、国語が県平均正答率を下回ったが、数学は県と同等の結果となった。しかし、数学の平均正答率は45%と依然として低い状況だった。

	国語		数学	
	指宿市	鹿児島県	指宿市	鹿児島県
令和7年度	7.2 / 14 問 (51%)	7.5 / 14 問 (53%)	6.7 / 15 問 (45%)	6.7 / 15 問 (45%)
令和6年度	8.2 / 15 問 (55%)	8.4 / 15 問 (56%)	8.0 / 16 問 (50%)	8.0 / 16 問 (50%)
令和5年度	10.3 / 15 問 (69%)	10.5 / 15 問 (70%)	7.1 / 15 問 (47%)	7.2 / 15 問 (48%)
令和4年度	9.9 / 14 問 (70%)	9.7 / 14 問 (69%)	6.4 / 14 問 (45%)	6.6 / 14 問 (47%)

	理科	
	指宿市	鹿児島県
令和7年度	482	493

※ 中学校理科は、生徒が活用する ICT 端末等を用いた、文部科学省 CBT システム (MEXCBT) によるオンライン方式 (CBT) で実施した。

※ 中学校理科の結果は、IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点 (IRT スコア) で表した。

2 授業改善のポイント

(1) 小学校

各教科の正答数分布グラフから、県平均と比べて、上位層が少なく、下位層が多い傾向が見られた。また、1~2問しか正答できていない子の割合も県平均と比べて高いので、学力差を考慮した授業を設計していきたい。

具体的には、単元計画等を見直し、教員が主体となる一斉指導の時間と学習者が主体となる時間のバランスをとることで、苦手な子は補充学習、得意な子は発展学習の時間を確保することができる。これまでも「学習者主体の授業づくり」に取り組んでいるが、今後より一層子供たちが「自己選択・自己決定」する場面を増やしていきたい。

(2) 中学校

各教科の正答数分布グラフは、小学校よりも学力差が顕著に表れていた。この学力差に対応するためにも、教員による一律・一斉・一方向の授業から脱却し、より一層「学習者主体の授業づくり」となるよう努めていく。

「学習者主体の授業づくり」の学習方法の一つとして、「自由進度学習」があり、学習者が自分のペースで教科の内容を学び進めることができる。全ての教科及び単元ということではなく、「できる教科から・できる単元から」、「単元内自由進度学習から」と、子供の実態に応じた授業デザイン・単元デザインをしていきたい。

「学習者主体の授業づくり」と「基礎的・基本的事項の定着」とのバランスを意識し、個に応じたきめ細やかな指導を、小・中学校が連携を深め、より一層充実させていきたい。